

緊急消防援助隊情報

平成27年度地域ブロック合同訓練の実施結果

広域応援室

中国・四国ブロック 緊急消防援助隊合同訓練実行委員会

平成27年度中国・四国ブロック緊急消防援助隊合同訓練は、香川県高松市香東川浄化センターを主会場に、次のとおり実施しました。

1. 実施日

平成27年10月31日（土）～11月1日（日）

2. 実施場所

高松市、坂出市、土庄町、小豆島町

3. 訓練想定

平成27年10月31日（土）9時00分頃、香川県高松市を震源とする直下型地震が発生し、高松市、坂出市、土庄町及び小豆島町で震度6強、その周辺市町でも震度6弱を観測した。

この地震により、多数の家屋や建築物が倒壊し、各所で火災や土砂崩れが発生。孤立地区も発生しており救助を求めているなど香川県内の消防力では対応が困難と判断し、緊急消防援助隊の応援を要請した。



消防応援活動調整本部運営訓練（香川県庁）

4. 初動対応訓練

地震発生後、直ちに香川県庁において消防応援活動調整本部（以下「調整本部」という。）の設置・運営訓練を実施し、調整本部と消防庁、被災地の緊急消防援助隊指揮支援本部（以下「指揮支援本部」という。）等と連携を図るとともに、併設した香川県災害対策本部（航空運用調整班を含む。）と情報共有を図るなど、連携した訓練をロールプレイング方式で実施した。

また、地震により高松市消防局庁舎が甚大な被害を受けたと想定し、指揮支援本部を高松市南消防署に設置。

また、坂出市消防本部及び小豆地区消防本部にも指揮支援本部を設置し、受援消防本部として指揮支援隊を受け入れ図上訓練を実施した。

《今後の課題等》

○ 今回の訓練は、香川県庁舎のスペースの制約があり、調整本部と香川県災害対策本部を別の部屋に設置して実施したが、両者を同一の部屋で実施することにより、調整本部内の消防関係機関と香川県災害対策本部に派遣されている自衛隊、警察等の関係機関との情報共有・調整等がより円滑になるため、県庁舎のレイアウト変更等を検討する必要がある。

5. 実働訓練

(1) 部隊参集・初動活動訓練

部隊参集は、進出拠点を複数設置し、管轄消防本部による受援対応訓練を実施した。統合機動部隊は迅速出動、県大隊は後続参集し、有人離島が被災地であるという地域性を考慮して、船舶及び消防防災ヘリ等を使用した部隊投入を実施した。

徳島県消防防災航空隊、高知県消防防災航空隊、近畿地方整備局のヘリサット及びヘリテレにより被災地の災害状況、部隊の参集状況等の情報収集を行った。

迅速出動に伴う統合機動部隊（岡山県、徳島県、愛媛県、高知県の4県）及び指定した県大隊については、進出拠点到着時に任務付与を行い、地震により発生した危険物施設火災、土砂災害を想定したブラインド型訓練をサテライト2会場で実施した。

その後、夜間訓練、宿営訓練と継続して実施した。



危険物火災対応訓練（コスモ石油（株）坂出物流基地）



《今後の課題等》

- 島しょ部を被災地として、船舶及び消防防災ヘリ等を使用した部隊投入を実施したが、津波・気象等の影響を考慮した体制も検討しておく必要がある。
- 進出拠点等の用地確保に苦慮したため、日頃より企業との関係を築き実災害時にも対応できる体制を作っておく必要がある。

(2) 後方支援活動訓練

後方支援活動訓練は、香川県総合運動公園を宿営場所として実施した。

《今後の課題等》

- テントエリアへの後方支援車両の進入を不可としていたため、資機材の搬送が効率的ではなかった。今後は、車両進入も出来る場所の検討が必要である。

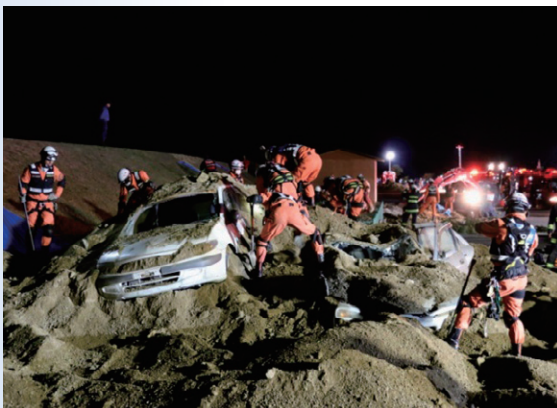
(3) 夜間訓練

夜間訓練は、狭隘空間救出訓練、土砂災害対応訓練、中高層建物消火救出訓練を実施した。

また、国土交通省四国地方整備局TEC-FORCEと連携し、電源照明車による災害現場への照度確保を実施した。

《今後の課題等》

- 今回の夜間訓練では、関係機関として国土交通省のみの参加であったが、自衛隊、警察、DMAT等との連携した訓練も取り入れるべきである。



土砂災害対応訓練（香川県消防学校）

(4) 部隊運用訓練

指揮支援部隊長（広島市消防局）、指揮支援隊長（北九州市消防局、神戸市消防局、岡山市消防局）の活動管理の下、地震被害を想定した各種訓練を実施するとともに、県内応援隊、自衛隊、海上保安庁、警察、建設業協会、漁協、DMAT等と連携した訓練を行った。とりわけ津波漂流者・孤立者捜索救出訓練では、海上保安庁及び漁協と連携した救助活動を実施した。

また、消防防災ヘリ等を使用した情報収集、中高層建物消火救出訓練での要救助者の救出、大規模火災対

応訓練での空中消火など機動力を活用した訓練を実施した。

《今後の課題等》

- 大規模災害時の活動においては、関係機関との連携が不可欠であり、現地合同指揮所では各機関の持っている情報を共有し、役割分担と活動方針の周知徹底を図る必要がある。



木造倒壊建物対応訓練（香東川浄化センター）

6. おわりに

香川県は離島が多く、過去には豪雨により多数の被害を出していることに鑑み、今回の訓練では、地域の実情を踏まえた訓練として、土砂災害を想定した訓練施設を多く設けました。また、すべての訓練をブラインド型としたことで他機関との連携や緊急消防援助隊との連携体制・活動のあり方について検証することができ大変有意義な訓練となりました。

今後は、今回の訓練における成果や課題を踏まえ、緊急消防援助隊の更なる応援体制の充実強化に努めて参ります。

最後に、今回の訓練開催に際し、多大な御協力をいただきました北九州市消防局、神戸市消防局、参加各県消防本部及び関係機関の皆様へ心より感謝を申し上げます。



九州ブロック 大分県実行委員会

平成27年度緊急消防援助隊九州ブロック合同訓練は、大分県佐伯市総合運動公園を主会場に、次のとおり実施しました。

1. 実施日

平成27年11月7日（土）～8日（日）

2. 実施場所

佐伯市、大分市

3. 訓練想定

平成27年11月7日（土）9時00分頃、日向灘を震源とするマグニチュード9の南海トラフ地震が発生し、佐伯市では震度6強、大分市では震度6弱を観測した。

この地震により、豊後水道沿岸に大津波警報及び瀬戸内沿岸に津波警報が発表され、大津波が佐伯市南部沿岸部に到達し、各地で被害が発生した。



消防応援活動調整本部運営訓練（大分県庁）

4. 被災地初動対応訓練

大分県庁において消防応援活動調整本部（以下「調整本部」という。）の設置・運営訓練を実施し、消防庁及び被災地の緊急消防援助隊指揮支援本部と連携を図るとともに、併設した大分県災害対策本部（以下「県災害対策本部」という。）と情報共有を図るなど被害情報の収集・整理及び緊急消防援助隊の効率的な部隊運用訓練を実施した。

さらにヘリコプターによる偵察・情報収集訓練及び指揮支援部隊搬送訓練をはじめ、統合機動部隊の進出及び部隊運用訓練とも連携した訓練を実施した。

《今後の課題等》

○ 県災害対策本部と調整本部との情報共有は、情報提供を待つだけではなく積極的に情報収集することも必要である。また、各防災機関との連携についても県災害対策本部を中心とした調整を図る必要がある。

5. 実働訓練

(1) 部隊参集訓練・統合機動部隊による部隊運用訓練

統合機動部隊（福岡・佐賀・熊本・宮崎の4県）及び県内応援隊は、大分市及び佐伯市の進出拠点に参集し、進出拠点到着時に任務付与を受け、大分市では地震による道路陥没、狭所崩落等の土砂災害やコンビナート災害、佐伯市では津波による流出車両、漂流者を想定したブラインド型の部隊運用訓練を4会場で実施した。

その後、大分県知事の指示により大分市で活動した統合機動部隊（福岡・佐賀・熊本の3県）は佐伯市に部隊移動した。また、各県大隊（福岡・佐賀・長崎・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄の7県）は、進出拠点に集結後、活動拠点である佐伯市に集結した。

《今後の課題等》

○ 高速道路料金所では渋滞が発生したため、今後ETCの導入等渋滞緩和を図る必要がある。



コンビナート災害救助訓練（JX日鉱日石エネルギー大分製油所）



津波流出車両救助訓練（佐伯市消防本部）



(2) 部隊運用訓練（夜間訓練を含む）

地震による被害を想定したトンネル崩落、座屈中高層建物、横坑暗渠崩落、橋梁崩落の4想定、さらに津波による被害を想定した津波倒壊家屋、冠水土砂埋没の2想定合計6想定とし、自衛隊、警察、国土交通省九州地方整備局、DMA T、九州救助犬協会等の関係機関と連携した訓練を実施した。

また、佐伯市にて救出された負傷者を宮崎県防災救急航空隊及び陸上自衛隊のヘリコプターにより大分市の大分スポーツ公園SCUへの搬送する訓練を実施した。



市街地空中消火訓練（佐伯市総合運動公園）

《今後の課題等》

- 救助活動を中心とした訓練想定であった。消火、救急活動訓練想定についても項目を増やす等の工夫が必要である。
- 他県から応援に来た緊急消防援助隊では搬送先医療機関の選定は困難であるため、被災地消防本部や県災害対策本部等でEMISS（広域災害救急医療情報システム）を活用して医療機関情報を緊急消防援助隊に伝える必要がある。
- 無線運用においては、状況報告時等に一時的に独占状態が発生しやすくなるため、動態情報システムや支援情報共有ツール等の活用を考慮する必要がある。

(3) 後方支援活動訓練

佐伯市野球場周辺を野営場所として後方支援活動を実施した。

《今後の課題等》

- 雨天での野営となったため、その対応策について検証するよい機会となった。
- メイン会場から約800メートル離れた場所に野営会場を設置した。野营地までの移動手段は徒歩としていたが、降雨の中での長距離移動は、隊員の消耗につながったため実災害時には後方支援小隊の人員輸送車等の活用を考慮する必要がある。



トンネル崩落・多重衝突事故救助訓練（佐伯市総合運動公園）



冠水土砂埋没救助訓練（佐伯市総合運動公園）

6. おわりに

今回の訓練は実災害時における長期間の活動を考慮して、夜間と日中の部隊運用訓練を同じ大隊が継続して取り組みました。

またブラインド型訓練としたことにより、今後の緊急消防援助隊の活動のあり方や、他機関との連携方法などにおいて、多くの反省点や課題を得ることができ、大変有意義な訓練となりました。

今回の訓練における課題を踏まえ、緊急消防援助隊応援、受援計画の見直し等に反映することとしています。

おわりに、訓練に際し多大な御協力をいただいた九州ブロック各県、高知県消防防災航空隊、大分県内各消防機関及び防災関係機関の皆様へ心より感謝申し上げます。

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部防災課 広域応援室
TEL: 03-5253-7527（直通）